

会議録

会議の名称	第4回朝霞市総合計画策定委員会
開催日時	令和6年2月15日（木） 午前 9時 9分から 午前10時16分まで
開催場所	朝霞市役所 別館3階 市長公室
出席者及び 欠席者の 職・氏名	<p>【出席者】 稲葉市長公室長、毛利危機管理監、須田総務部長、清水市民環境部長、 佐藤福祉部長、玄順こども・健康部次長兼保育課長、山崎都市建設部長、 村沢都市建設部次長兼開発建築課長、紺清会計管理者、 田中上下水道部次長兼下水道施設課長、太田議会事務局長、 野口学校教育部長、神頭生涯学習部長、堤田監査委員事務局長 （事務局） 櫻井政策企画課長、齋藤同課主幹兼課長補佐、福田同課政策企画係長、 山本同課同係主任</p> <p>【欠席者】 なし</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎調査の結果について（報告） 2 市民意識調査等の結果について（報告） 3 市民ワークショップの意見について（報告） 4 将来人口推計について 5 朝霞市が目指すべき方向性について
会議資料	<p>【資料1-1】 第6次朝霞市総合計画策定に向けた基礎調査報告（案） 【資料1-2】 基礎調査に係る第3回策定委員会の指摘事項及び対応 【資料2-1】 朝霞市民意識調査及び青少年アンケート結果報告書（速報版） 【資料2-2】 朝霞市子育て・定住に関する意識調査結果報告書（速報版） 【資料2-3】 朝霞市転入・転出意識調査結果報告書（速報版） 【資料2-4】 小中学生の意見聴取に関する報告書（速報版） 【資料3】 市民ワークショップ ～あさかの未来を話そう～ 結果報告書（速報版） 【資料4】 第6次朝霞市総合計画策定に向けた人口推計検討資料 【資料5】 朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】 【別紙】 第4回総合計画策定委員会資料訂正箇所一覧</p>

会議録の 作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	■要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の 当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 出席者の確認及び事務局の決裁	
傍聴者の数	—	
その他の 必要事項	なし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【開会】

【議題】

1 基礎調査の結果について（報告）

【説明】

（事務局：福田政策企画課政策企画係長）

基礎調査の結果について報告する。

資料1-1は、第3回総合計画策定委員会及び第2回総合計画審議会での指摘事項を踏まえて修正を行い、また、前回は取りまとめ中であった「まちづくりの主要課題」を新たに掲載したものである。

大幅な加筆・修正を行った点については、資料1-2にまとめたので、主なものを説明する。

1段目、統計に用いられている指標や用語の注釈については、資料1-1の11ページに、統計用語解説として追記している。

次に、3段目、安全・安心の定義が広義のものと狭義のものが混在しているという指摘を受け、見出しの修正を行った。

次に、下から5段目の都市比較について、埼玉県の平均を追加した。

最後に、下から3段目の地勢の比較については、近隣で比較する効果が薄い日照時間や降水量を削除し、比較の効果があると考えた通勤時間や住宅平均地価については、関連する他の分類に移動した。

総合計画審議会においては、内部環境の分析におけるチャート図について、数値が小さい方が一般的に良いと理解される指標が内側に窪んでしまっているため、誤解されないよう工夫してもらいたいとの意見があったため、そのような指標については、「100マイナス偏差値」の数値を示すこととしている。

資料1-1、25ページからの「まちづくりの主要課題」は、本市を取りまく外部環境及び近隣市等と比較した本市の内部環境を踏まえ、(1)から(5)まで5項目に整理しており、いずれも「主要な課題の見出し」、「本文」、「課題の背景」から構成している。

本文は、外部環境及び内部環境を踏まえて記載しており、最下段に「課題の背景」として、関連する時代潮流、主要統計指標等を示している。

項目の(1)として、現状、本市の人口は増加しているものの鈍化傾向であり、国や東京都の状況を見ても、いずれ本市の人口が減少に転じることが想定されることから、人口増加傾向を可能な限り維持するとともに、いずれ訪れる人口減少局面に備える必要があると考えている。

(2)として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、様々な場面でオンライン化が進み、都市部から地方部への企業や人の移転も見られる中、東京のベッドタウンとしてのあり方だけでなく、市内への企業誘致等による、市内での就労機会の確保なども進める必要があると考えている。

(3)として、本市は若年層の有配偶率は比較的高いが、合計特殊出生率は低下傾向にあり、また、2022年は県の平均よりは高いものの、国の水準をわずかに下回っているため、結婚・出産・子育て期にある市民のニーズを踏まえながら、子育て支援の更なる充

実に努める必要があると考えている。

(4)として、都市比較を見ると、市民は比較的豊かで安全・安心な環境で暮らしていることが読み取れるが、QOLの重視を基本として、多様性を尊重し、社会的に孤立しない地域社会づくりを促すとともに、引き続き災害に強いまちづくりを進めていく必要があると考えている。

(5)として、国のDX推進を踏まえ、本市でも朝霞市行政情報デジタル化推進方針を策定しているが、DXの推進は行政の効率化だけでなく、地域課題の解決に繋げることも求められていることから、デジタルデバイドに配慮しながら、デジタルを活用した効果的な行政運営のあり方を引き続き検討していく必要があると考えている。

以上の5項目を、本市の外部環境及び内部環境から見えてきた主要課題として整理している。

説明は以上である。

【質疑等】

(清水市民環境部長)

26ページにおいて、企業立地が課題の一つに挙げられているが、個別計画である産業基本計画では、企業誘致についてリーディング・プロジェクトと位置付けているが、課題としては考えていないため、記載内容を見直してもらいたい。

(事務局：櫻井政策企画課長)

所管課と記載の仕方について検討し、課題として挙げない方向性で調整したい。

(山崎都市建設部長)

28ページについて、「朝霞のライフスタイル」の魅力向上というタイトルの表現と、内容が繋がっていない部分があると思うため、項目を分ける等、構成を検討した方がよいのではないかと。

また、自然災害に係る記載については、能登半島地震について特出しされているが、それ以外にも様々な災害があるため、大局的な表現にした方がよいのではないかと。

(事務局：櫻井政策企画課長)

指摘を踏まえ、タイトルと内容の整合性という観点から、整理の仕方を再考する。

また、自然災害に係る記載についても、文章や構成を再考する。

【結果】

指摘のあった点について、必要に応じて修正を行う。

【議題】

2 市民意識調査等の結果について（報告）

【説明】

(事務局：山本政策企画課政策企画係主任)

市民意識調査等の結果について、順に報告する。

なお、本日の資料は速報版として、単純集計の結果をまとめているが、今後、居住地・年齢別のクロス集計等を行い、結果がまとまり次第、改めて報告書を提供する。

はじめに、市民意識調査についてだが、概要として、資料2-1の3ページに調査の目的、調査の方法、回収結果等をまとめている。

主な調査結果について、まず、15ページ、朝霞市に住み続けたい理由としては、「買い物など日常生活が便利」が最も多く、次いで「通勤・通学に便利」、「今の住まいに満足している」という結果になった。

17ページ、朝霞市外へ引っ越したい理由としては、「都会的な楽しさや魅力が少ない」が最も多く、次いで「地域になじみや愛着がない」という結果である。

20ページでは、日頃の地域との関わりについて、回答を経年比較したところ、「日頃から助け合うなど親しく付き合っている」の割合が、平成6年以降、ずっと減少を続けている。

45ページからは、市の全般的な取組について、満足度と重要度を調査した結果だが、満足の割合が5割を超えた取組は、廃棄物処理、上下水道整備、防災・消防の3項目、不満の割合が2割を超えた取組は、道路交通、土地利用、産業活性化の3項目である。

50ページでは、「満足度」と「重要度」の相関関係をマトリクスで表しており、縦軸を重要度、横軸を満足度とし、それぞれの平均値により4つに区分している。

本市は、重要度、満足度ともに平均以上で、現状維持を図るべき項目が分類される「タイプ2」と、重要度、満足度ともに平均以下で、状況に応じて取組むべきと考えられる項目が分類される「タイプ3」に取組が集中する傾向が見られる。

また、令和元年の調査と比較すると、道路交通、学校教育、社会保障、障害のある人への支援の4項目は、前回も重要度が平均以上、満足度が平均以下であり、今後、力を入れて取り組むべきと考えられる項目が分類される「タイプ1」であった。

57ページでは、未来に生かしていきたい朝霞市の強みを聞いたところ、「都心へのアクセスの良さ」が最も多く、他に「交通利便性」「武蔵野の自然」「彩夏祭などのイベント」が挙げられた。

59ページ、60ページは、今回の調査での新規項目であり、子育て世帯に選ばれるまちになるためのまちづくりの方向性としては、「子どもが安全で安心して遊べる施設の整備」が、高齢者や障害のある人が安心して暮らせるまちになるために重要なこととしては、「介護サービス・障害者福祉サービスの充実」が最も多い結果となった。

次に、青少年アンケート結果についてだが、75ページに調査概要を掲載している。

主な調査結果について、まず、88ページでは、朝霞市が好きな理由を経年比較したところ、「交通の便がよい」の割合がずっと増加している。

また、「住んでいる環境や街並みがよい」や、「治安がよくまちが安全である」の割合が、今回の調査で大きく増加している。

110ページ、問13は今回の新規項目であり、放課後や休日に過ごすのに望ましい場所については、「買い物や食事ができる場所」が最も多く、次いで「スポーツができる体育館や運動場」、「静かに勉強できる場所」が多いという結果であった。

113ページ、朝霞市の自慢や残したいものについては、彩夏祭などのイベントや、交通に便利なこと、自然や農産物といった回答があった。

115ページでは、朝霞市長だったとしたら何をしたいかを聞いたところ、遊び場や公園を増やす、朝霞をもっとPRするといった回答があった。

次に、子育て・定住に関する意識調査の結果についてだが、資料2-2の1ページに調査概要を掲載している。

主な調査結果についてだが、まず、11ページ、朝霞市で子どもを育てる中でよかった点としては、「自然環境の豊かさ」が一番多く、次いで「治安の良さ」という結果であった。

12ページ、今後改善すると良い点としては、「道路通行等の安全度」が一番多く、次

いで「市の子育てに係る経済的支援の充実度」という結果であった。

18ページ、住み替えたい理由としては、「住宅が手狭になるから」が最も多く、次いで「生活環境を向上させたいから」が挙げられた。

22ページ、地域での活動にかかわるとしたら何をやりたいかでは、「子育て・教育に係るボランティア活動への参加」が一番多い結果となった。

次に、転入・転出意識調査の結果についてだが、資料2-3の1ページに調査概要を掲載している。

転入に係る主な調査結果について、7ページ、朝霞市への転入のきっかけは、「住宅事情」という回答が、8ページ、朝霞市を居住地に決めた理由は、「通勤・通学に便利」という回答が最も多くあった。

転出に係る主な調査結果については、15ページ、転出のきっかけとして、「自分や家族の就職・転勤・転職」という回答が最も多い結果となった。

最後に、小中学生の意見聴取の結果についてだが、資料2-4の1ページに調査概要を掲載している。

2ページでは、回答結果について、ワードクラウド分析を行い、頻度の高い単語や、文章内の重要度が高い単語を視覚的に捉えやすくしており、3ページでは、共起分析を行い、単語同士の結びつきの強さを可視化している。

8ページ、総括としては、主な回答として、1問目の、朝霞市の好きなところについては、自然豊か、東京に近い、彩夏祭、イベントが多く楽しい、といった回答が見られ、2問目の、大人になったら朝霞市でどう過ごしたいかについては、家族や友人と買い物や食事をしたり、朝霞の森などの自然に親しみながら過ごしたい、という回答が見られた。

説明は以上である。

【質疑等】

(堤田監査委員事務局長)

アンケート調査について、円グラフに記載されている人数、割合の表記に明確な区切りがなく、数値が繋がって見えてしまうため、表記の仕方を見直した方がよいのではないか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

事務局においても同様の認識をしており、最終的な完成版の報告書までに調整する予定である。

(山崎都市建設部長)

転入・転出調査について、回答者数が10名前後と非常に少ないが、審議会等においてどのように説明をすることを考えているか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

転入・転出者の声を聞ければと思って実施したものであるが、協力の度合いは個々によって変わってくるため、その部分を含め、ありのままを答えることを考えている。

(太田議会事務局長)

紙を渡し、返送してもらう方式ではなく、窓口で聞き取りを行えば回答は増えてくるのではないか。

例えば、審議会は現在の結果で進めながらも、別途、聞き取りで回答を増やしていくというようなことも考えてはどうか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

前回の直接聞き取りを行うという調査方法も踏まえ、総合窓口課と調整を行ったが、窓口に張り付き、聞き取りを行うことは難しいという結論に至ったことから、このような方式で実施したところである。

しかし、今回、標本数が少ない結果となったことから、今後行う調査の手法について検討するとともに、転入・転出者への調査結果に対する説明方法についても、検討していきたい。

(須田総務部長)

転入・転出者への調査自体は、数字が集まれば非常によい調査だと思うので、手法の検討はぜひお願いしたい。

ただ、今回の回答数では、母数が少なすぎてデータとして成り立たないと思うので、もう少し簡素化し、書類一枚程度にまとめるような形の方がよいのではないか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

報告書の見せ方について、意見を踏まえ、検討していきたい。

(佐藤福祉部長)

朝霞市に住みつづけたいという回答の割合では、10年前の調査、今回の調査で8割を超えている一方で、コミュニティが崩壊しており、近所付き合いや町内会に関する数値の悪化が顕著に表れている。

先ほど、基礎調査における課題では触れられていなかったが、このことは、住民福祉を進める上で、市としての課題となっていると思う。

(太田議会事務局長)

市民意識調査と青少年アンケートが一冊の資料としてまとめられているが、調査対象者の年代を考えると、青少年アンケートは小・中学生への意見聴取とまとめた方がよいのではないか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

子育て・定住調査についても、調査対象者の年代からすると市民意識調査に近いという考え方もできるので、最終的にまとめる際に、複数の調査を一冊にまとめるのか、分冊にするのか等、検討していきたい。

(太田議会事務局長)

資料2-1の50ページにあるマトリクス図について、横軸の指標名の記載がない。

また、縦線が複数入っているため、どこが各タイプの領域の区切りとなるのか、分かりづらいと思う。

(事務局：櫻井政策企画課長)

指標名の追記や、表の見せ方について、調整させていただく。

【結果】

指摘のあった点について、必要に応じて修正を行う。

【議題】

3 市民ワークショップの意見について（報告）

【説明】

（事務局：山本政策企画課政策企画係主任）

市民ワークショップの意見について、報告する。

資料3の1ページでは、概要について記載している。

当日、参加者は9つのテーブルに分かれ、朝霞市のよいと思うところや改善が必要と思うところ、未来の朝霞市がどんなまちであったらよいかなどについて、グループワークを通じて様々な意見を出し合い、最後に発表を行った。

この速報版では、グループごとの話し合いの内容をまとめているが、31ページ、総括として、目立った意見としては、朝霞市の未来として、多様な交流やコミュニティがあること、多様な遊び場、自然との共存、買い物や食事ができる場の充実などが挙げられており、交通利便性、自然の豊かさ、イベントに関する評価が高いことから、これらの内容を、資料5の朝霞市が目指すべき方向性の資料に反映している。

報告は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

引き続き、報告書の取りまとめを進める。

【議題】

4 将来人口推計について

【説明】

（事務局：福田政策企画課政策企画係長）

将来人口推計について説明する。

本日の総合計画策定委員会や、3月に予定している総合計画審議会における意見を踏まえ、最終的にどのような推計にするかを決定していきたいと考えている。

資料4は、人口推計の目的と論点、現在の人口の動向、9種類の推計、大きく3つに分かれて構成されている。

3ページでは、人口推計の目的として、第6次総合計画の策定に当たり、基本構想に掲げる将来人口の見通しを検討し、それを踏まえた基本計画の策定に繋げていくこととしており、人口推計の論点については、本市の人口がどのような傾向で推移するのか、出生や転出入の傾向をどのように捉えるかとしている。

4ページは、本市の人口の動向についてだが、本市の人口はグラフのとおり、一貫して増加しているが、直近の2年を見ると鈍化傾向にある。

5ページは、年齢を3区分に分けた人口の推移だが、大きな変化はないものの、少子高齢化が緩やかに進行していることが分かる。

6ページは、自然動態の推移だが、これまで、出生者数が死亡者数を上回る自然増の状況だったものが、近年は均衡しつつあり、出生者数が死亡者数を下回る「人口の自然減」

の局面に突入しようとしていると考えられる。

7ページは、合計特殊出生率の推移だが、平成27年をピークとして、国・県と同様、本市の出生率も低下しており、今後の少子化が懸念される。

8ページ、母の年齢5歳階級別出生率については、この10年で合計特殊出生率が最も高かった平成27年と比較したものだが、特に25～39歳における出生率が低下している。

9ページは、社会動態の推移だが、本市は一貫して、転入が転出を上回る転入超過の状況ではあるものの、近年転入者数と転出者数が均衡しつつあり、転入者数が転出者数を下回る「人口の社会減」への突入も懸念される。

10ページは、9ページの転出入の状況を年齢別に示すグラフであり、2015年から2020年までの5年間を見ると、転入超過のピークとなる世代は、20代前半から後半までの世代となっている。

11ページからは、本市の将来人口推計を行っている。

まず、出生については、過去5年間の本市の出生の状況をそのまま維持した場合を出生中位とし、それより出生率が向上した場合と、低下した場合の3パターンとしている。

12ページでは、移動について、過去5年間の本市の転入超過の状況をそのまま維持した場合を移動高位とし、緩やかに均衡に向かう移動中位と、比較的早期に均衡に向かう移動低位の3パターンとしている。

13ページでは、「ベース推計」の考え方として、過去5年間と同様の傾向が今後も続くとして推計したものについて、推計条件等をまとめており、14ページ、ベース推計の推計結果では、2060年が人口のピークとなり、その後減少に転じ、高齢化の程度は比較的低く、2070年でも高齢者は3人に1人未満となっている。

次に、20ページは、出生率は現状を維持したまま、社会増がベース推計より緩やかに均衡に向かう場合の推計結果だが、2045年に人口がピークを迎え、その後減少に転じており、また、高齢化の程度がベース推計の数値よりも高いと見込まれている。

次に、22ページは、ベース推計よりも社会増が緩やかに均衡に向かうが、出生率が向上していくと仮定した場合の推計だが、20ページの推計と同様、2045年に人口がピークを迎え、その後減少に転じており、また、高齢化の程度も高いと見込まれている。

なお、これらの9パターンの推計結果は、32、33ページで図表にまとめている。

最後に、31ページは、推計結果の総括だが、9パターンの推計のうち、本市の第6次総合計画を策定するに当たり、どの推計値を採用するか、この策定委員会や審議会等で意見をもらいたいと考えている。

この検討資料では、出生率は維持または向上、移動は現状よりは緩やかに均衡に向かうパターン(4)、(5)を候補として考えている。

その理由としては、出生率については、国、県、市とも子育て支援を強く進めているという点から、維持または向上を目指すのが妥当と考えるためであり、また、移動については、本市の社会増の要因として、東京からの人口流入が多い中、東京都の人口が2030年をピークに減少に転じると推計されていることを踏まえると、本市の転出入も緩やかに均衡に向かうという考えに立つのが妥当と考えるためである。

更に、その中でも、出生率向上につながる取組を今後展開していくことを考慮すると、(5)を軸に検討を進めることが有効ではないかと考えている。

説明は以上である。

【質疑等】

(村沢都市建設部次長兼開発建築課長)

東京都の人口減少により、本市の転入も減少するとした要因は何か。

(事務局：櫻井政策企画課長)

現状として、都内から近隣自治体に流入しているという中で、東京都の人口が減少すれば、近隣自治体に流入する人口も減るであろうということである。

(山崎都市建設部長)

出生率が上がる、ということは、感覚的に期待しづらいと思っているが、出生高位という推計を軸に用いても問題はないか。

また、都市計画マスタープランにおいては、社人研の推計を用いているため、こちらの人口推計と、推計の仕方や、その結果でどのような差が出ているのか等、整理してもらいたい。

更に、推計値と、政策的に目指したい数値が混ざっている印象があるため、推計値と目標値という形など、2種類の値を用いてもよいのではないか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

出生高位を候補に挙げた理由としては、国・県・市において子育て施策を強く進めているという、政策的な側面を含んでいるが、字句と内容の整理を行う。

社人研の推計との違いについては、数値の開きや傾向など、別途資料でまとめ、用意していきたいと思う。

(太田議会事務局長)

前回計画の策定時には、社人研の数値を用いており、地方版総合戦略を策定した際に、社人研ではない推計を用いていたと思う。

総合戦略の際の推計と比較した際に、今回の推計における人口のピークにどのような変化があるか。

(事務局：福田政策企画課政策企画係長)

地方版総合戦略の際の推計は、2040年までの推計だが、2040年には合計特殊出生率が1.6になると推計しており、これは、今回の出生高位で仮定している値と同じである。

しかし、今回の出生高位での推計では、2040年以降も合計特殊出生率が上昇を続け、最終的に1.8になると仮定しているため、地方版総合戦略よりも高い目標になっている。

(佐藤福祉部長)

前回計画の策定時には、社人研の数値を用いたところ、上昇率が高すぎるのではないかと審議会から意見があり、下方修正した記憶がある。

出生高位の推計については、国や県の政策も踏まえているとのことだが、どこまで反映していくか、社人研の数値も踏まえて検討した方がよいのではないか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

社人研の推計との比較もした上で、どの推計を使っていくか、検討したいと思う。

(須田総務部長)

人口が減った際には、それに応じた政策を考えればよいとも思うが、市として人口を減らさないための政策を取るべきという考えに立って、この推計を候補としているのか。

また、先ほどの都市建設部長の質疑にもあったが、市の願望と、客観的な数値とが混在していると思う。

何が客観的な数値で、それを踏まえてどうしたいのか、もう少し際立つように記載した方がよいのではないか。

31ページの総括についても、なぜこの2パターンの推計を候補に選択したのかという論拠に乏しく、説得力に欠けるのではないか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

現状、市としても、子育て支援等の出生に繋がる施策を行っていることを加味し、このように示しているが、検討プロセスが足りないという指摘を踏まえ、全体的な考え方も含めて検討したい。

(稲葉市長公室長)

色々な意見があったが、修正等を行った資料は、再度委員に提供するのか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

意見を反映し、修正したものについて、再度メール等により提供し、改めて確認をしてもらいたいと考えている。

【結果】

指摘のあった点について、必要に応じて修正を行う。

【議題】

5 朝霞市が目指すべき方向性について

【説明】

(事務局：福田政策企画課政策企画係長)

朝霞市が目指すべき方向性について説明する。

現在の第5次総合計画の基本構想では、将来像（ビジョン）を「私が暮らしたつづきたいまち朝霞」とし、将来像の基本概念（コンセプト）を「安全・安心なまち」、「子育てがしやすいまち」、「つながりのある元気なまち」、「自然・環境に恵まれたまち」としているが、事務局では、現行計画でいう将来像や基本概念に相当するような事柄を、第6次朝霞市総合計画の基本構想に置きたいと考えている。

将来像や基本概念という呼び名にするかは、現時点では決まっていないため、まずは大きな括りで「朝霞市が目指すべき方向性」についてキーワードを検討してもらい、それを今後開催する総合計画審議会において、取りまとめていきたいと考えており、その議論をする上で用いるために、資料5を作成している。

資料の構造だが、資料の「四隅」には、これまでの調査から分かったこと等の概要を記しており、左から反時計回りに、基礎調査、人口推計、市民ワークショップ、市民意識調査等、それぞれの調査結果のポイントを記載している。

また、資料の中心部分には、「キーワード」として、調査結果のポイントを基にした言葉を記載している。

この「キーワード」は、朝霞市が目指すべき方向性の要素であり、現行計画での暮らし、安全・安心、子育て、つながり、元気、自然、環境などの言葉に当たるものである。

この場においては、特に「キーワード」について、これまでの調査結果の資料等も踏まえ、言葉の追加・修正も含め、議論してもらいたいと考えている。

説明は以上である。

【質疑等】

(山崎都市建設部長)

都市建設部では、「ウォークブル」や「歩きたくなる」というまちを目指しているため、それが読み取れるようなキーワードを入れることはできないか。

(佐藤福祉部長)

福祉部でも、「地域共生社会」という言葉がどの個別計画でも入っているため、可能であればそのようなものを入れてもらいたい。

これは、基本構想を検討する上で、将来像に関してのみ用いるものなのか。

(事務局：櫻井政策企画課長)

将来像から基本概念まで、繋がりは出てくるものなので、必ずしも将来像のみに用いるものではない想定である。

意見のあったキーワードそのものを記載することは難しいかもしれないが、それに見合ったキーワードが資料から読み取れば、追記することを検討する。

【結果】

指摘のあった点について、必要に応じて修正を行う。

【その他】

(山崎都市建設部長)

都市計画マスタープランの策定と連携を図っていききたいため、総合計画の審議会に都市建設部の職員を出席させてもらいたい。

(事務局：櫻井政策企画課長)

了承した。

(事務局：櫻井政策企画課長)

今後の予定だが、後日、修正した資料をメール等で提供し、委員の内容確認を経て、3月26日の第3回総合計画審議会において報告等を行うことを予定している。

また、意識調査等の基礎情報がそろったため、改めて、詳細なスケジュールについて検討し、固まり次第情報提供する。

次回の策定委員会は、進捗に応じて開催するため、引き続き協力をお願いしたい。

【閉会】